

が開催されました。その中で、蒲郡市助役の足立氏は、これからの蒲郡において重点的に実施すべき3点の1つに「男女共同参画の推進」を挙げ、「男性中心で進めてきたまちづくりにも限界があり、女性の社会進出が今後のカギとなるであろう」と話していました。

また、7月には「海のまち蒲郡ふれあいツアー」が実施され、市内や近隣市町に住む外国の方と、海の体験やバーベキューなどを通して交流を行いました。バーベキューでは、慣れた手つきで肉や野菜を焼いていた男性の姿が印象的でした。

## 地球人として 男女「協働」参画

こうしたセミナーや講座は、すべて、国際交流協会ボランティアの皆さんが中心となつて実施されています。

ボランティアの会員は120数名、うち3分の2は女性会員です。イベントや講座の準備からそのお知らせ、当日の運営はもちろん、後片付けまでみごとにフットワークでこなしています。ここでは、「男だ。女だ。」という意識はあまりな

いようです。外国の方たちと交流し、文化を知り、友好を深めることが大切で、男女の別や日本人かどうかではなく、同じ地球に住む仲間として、お互いの良さを認め、理解し合うことを目的としているからです。それをさらに、まちづくりにいかそうと、会員がひとつになつて「協働」しています。

※「協働」：  
社会や地域、家庭などで、誰もが  
対等な立場で協力して物事に取り  
組むこと。

## 一人ひとりが主役

ボランティアの皆さんの行動には、「自分ができることは何か」「どうしたら、みんなが楽しく気持ちよく、過ごすことができるか」という思いやりが自然にあらわれています。誰が偉いとか、女性だからこうしなさいとか考えずに、一人ひとりが自分の持ち味を發揮しています。誰もが主役で頑張っています。そして、お互いにそれを認め合っています。

だからこそ、わざわざ「男女共同参画しましょう」と声高らかに言わなくても、スムーズに活動ができていくのです。

## 「自分らしさ」とは 「自分を知る」こと

皆さんは、地域活動やサークル、ボランティア活動など、仕事や家庭のこと以外で何か活動していますか？

ちょっと目を外に向けてみてください。蒲郡には、いろいろな活動をしているグループがたくさんあり、その大半は女性です。その点で、女性は地域や社会で自分の生きがいや楽しみを見つげるために、積極的に自分探しをしていくのかもしれない。

男性は会社や仕事が忙しくて、そんな時間や心の余裕がないのかもしれない。

しかし、忙しいからこそ自分探しは必要です。自分探しは自分を知ることです。ふだんとは違う活動や他人との関わりによって、新たに自分を発見したり、喜びやくつろぎなどが得られるかもしれません。

さらに、自分自身を知ることが「自分らしさ」へとつながります。そこから自分以外の他人を理解し認め合う「協働」社会へ大きな一歩が踏み出されます。



国際交流協会ボランティア会  
会長 大竹 富三江さん



### 「家事協働」そんなの当たり前

ボランティア会には5つの部会があります。会が発足した当時、各部長は全て男性でした。けれど、実際に活動できる人というところで、2年後には女性も部長になるようになりました。会としては、「国際交流」という言葉がなくなるくらい、外国人との交流がごく自然になることが目標ですね。

わが家では結婚した時から、家事は夫と二人でやっていますよ。子育ても一緒。当時は周りに後ろ指をさされたこともありましたが、夫は「二人とも働いているのだから、そんな当たり前」と。

大竹家は何でも協働です。